

# 景況レポート

(10月分・情報連絡員79名)

## DI値は4ヶ月連続で下降

【概況】10月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが8.9%(前月調査8.9%)、「悪化」が46.8%(同44.3%)で、業界全体のDI値は-37.9となり、前月調査と比較して2.5ポイント下回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-34.4で前月調査(-38.7)と比較して4.3ポイント上回った。一方、非製造業全体のDI値は-40.4で前月調査(-33.4)と比較して7.0ポイント下回った。

製造業では、耐震補強工事等により一部の業界で受注増となっているものの、食料品は依然として県外大手の攻勢が強く、また、繊維製品は店頭販売の不振により今後の受注が懸念される状況にある。

非製造業では、自動車販売がエコカー補助金の終了に伴う前年割れや旅行関連は中国、台湾等への渡航に陰りが始めている。

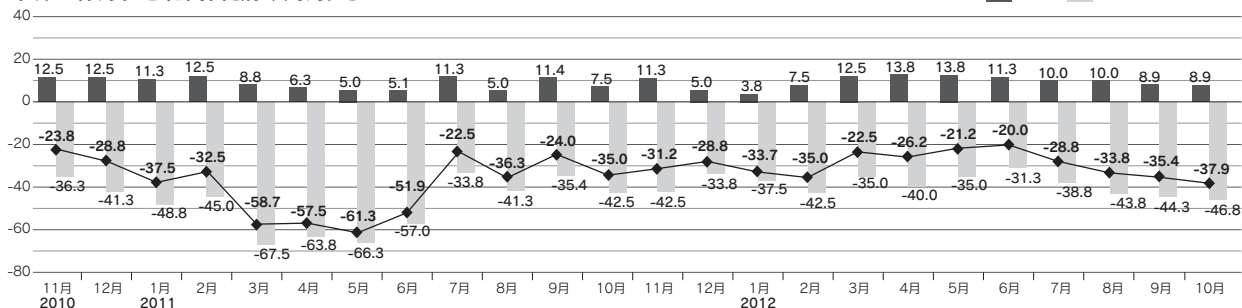
(回答数：79名 回答率：98.8%)

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
業種						
製造業						
非製造業						

【凡例】  
 快晴 30以上  
 晴れ 10以上 30未満  
 曇り 10未満 30未満  
 雨 10以上 30未満  
 雷雨 30以下  
 【天気図の見方】前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index (ティフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



### 業界の声

豆腐	県外大手企業の攻勢が強く、依然として厳しい経営が続いている。また、廃業や倒産する業者も出てきており、生き残りに懸命である。
精穀・製粉業	新米が市場に出回りはじめ、組合員からの引き合いも増加してきた。価格は、昨年より高値でスタートしたが、売価への転嫁は難しい状況である。
繊維製品	今年は天候が暖かく、例年であれば、冬物追加の時期で納期面で忙しいはずであるが、秋冬物の販売が遅れたため、追加発注は極度に減少した。このため、各工場では、今後の受注に見通しが立たず苦慮している。
一般製材	土木用資材、角材製品及び準不燃材等内装材の受注が少しずつではあるが増加してきている。また、機械設備の生産ラインを改良したことで、製品の生産量も増えている。
生コン	10月の出荷数量は前年同月比110%前後。4月～10月累計でも前年比約110%。各地区とも今年度に関しては一部地域を除いて前年数量を確保できる見込みである。
機械金属	前月に引き続き、各社とも稼働率100%以上となっている。鉄鋼関係の組合員企業では通常の鉄骨工事に加え、耐震補強工事が発注され始めていることが理由の一つと考えられる。
自動車販売	10月の新車販売台数は、登録自動車が1,942台(前年同月比94.3%)、軽自動車が1,841台(同96.0%)で、合計3,783台(同95.1%)であった。
石油販売	ガソリン1ℓあたり146円60銭で前月比1円80銭の上げ。軽油1ℓあたり127円10銭で前月比90銭の上げ、配達灯油は18ℓで1,677円で前月比25円の上げとなったが、販売は低マージンで厳しい状況。
商店街	家電販売は暖房機器、LED照明の売上げがあり例年並みに推移。酒類小売は7月に減少したものの、少しずつ戻ってきてはいるが、全般的に停滞感があり、年末商戦に期待する。
旅行	対前年同月比で見ると国内101%、海外85%で推移しており、国内は概ね順調である。一方で、海外は尖閣・竹島問題により、中国の他、台湾・韓国への渡航にも陰りがでてきた。
トラック	数量、収入とも前年同月に比べ微減となった。品目別では自動車部品、自主米がそれぞれ10%の減少、その他雑貨が微増など、概ね前年同月並で推移した。燃料価格は対前月比-2円40銭、対前年同月比+3円80銭となり、その分収益は悪化している。